特定非営利活動法人市民共同発電をひろげる城陽の会定款

第１章　総則

（名称）

第１条　この法人は、特定非営利活動法人市民共同発電をひろげる城陽の会という。

（事務所）

第２条　この法人は、主たる事務所を京都府城陽市に置く。

第２章　目的及び事業

（目的）

第３条　この法人は、再生可能（自然）エネルギーによる発電事業に関する事業を行うことにより、市民自身が主体的に城陽のまちづくりの一翼を担う活動に取り組むことに寄与することを目的とする。

（特定非営利活動の種類）

第４条　この法人は、前条の目的を達成するため、次に掲げる種類の特定非営利活動を行う。

環境の保全を図る活動
まちづくりの推進を図る活動
社会教育の推進を図る活動

（事業）

第５条　この法人は、第３条の目的を達成するため、次の事業を行う。

特定非営利活動に係る事業

① 再生可能（自然）エネルギーによる発電設備の設置及び設置支援とその管理、必要な基金の運用管理
② 環境問題の啓発・持続可能なまちづくりをめざす事業
③ その他、第　条に掲げられた目的を達成するための事業

第３章　会員

（種別）

第６条　この法人の会員は、次の２種とし、正会員をもって特定非営利活動促進法（以下

「法」という。）上の社員とする。

正会員　　この法人の目的に賛同して入会し、総会に参加する者

賛助会員　この法人の目的に賛同して入会する個人及び団体

（入会）

第７条　会員の入会については、特に条件を定めない。

２　会員として入会しようとするものは、会員の種別を記載した入会申込書により、理事長に申し込むものとし、理事長は、前条各項に掲げる条件に適合すると認めるときは、正当な理由がない限り、入会を認めなければならない。

３　理事長は、前項のものの入会を認めないときは、速やかに、理由を付した書面をもって本人にその旨を通知しなければならない。

（入会金及び会費）

第８条　会員は、総会において別に定める入会金及び会費を納入しなければならない。

（会員の資格の喪失）

第９条　会員が次の各号の一に該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

退会届の提出をしたとき。

本人が死亡し、又は会員である団体が消滅したとき。

除名されたとき。

（退会）

第　　条 会員は、理事長が別に定める退会届を理事長に提出して、任意に退会することができる。

（除名）

第　　条 会員が次の各号の一に該当するに至ったときは、総会の議決により、これを除名することができる。この場合、その会員に対し、議決の前に弁明の機会を与えなければならない。

この定款に違反したとき。

この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。

（拠出金品の不返還）

第　　条 既納の入会金、会費及びその他の拠出金品は、返還しない。

第４章　役員及び職員

（種別及び定数）

第　　条 この法人に次の役員を置く。

理　事　　人以上　人以下

監　事　　人以上　人以下

２　理事のうち、１人を理事長、１人を副理事長とする。

（選任等）

第　　条 理事及び監事は、総会において選任する。

２　理事長及び副理事長は、理事の互選とする。

３　役員のうちには、それぞれの役員について、その配偶者若しくは３親等以内の親族が１人を超えて含まれ、又は当該役員並びにその配偶者及び３親等以内の親族が役員の総数の３分の１を超えて含まれることになってはならない。

４　監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねることができない。

（職務）

第　　条 理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。

２　副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故あるとき又は理事長が欠けたときは、その職務を代行する。

３　理事は、理事会を構成し、この定款の定め及び理事会の議決に基づき、この法人の業務を執行する。

４　監事は、次に掲げる職務を行う。

理事の業務執行の状況を監査すること。

この法人の財産の状況を監査すること。

前２号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実があることを発見した場合には、これを総会又は所轄庁に報告すること。

前号の報告をするため必要がある場合には、総会を招集すること。

理事の業務執行の状況又はこの法人の財産の状況について、理事に意見を述べ、若しくは理事会の招集を請求すること。

（任期等）

第　　条 役員の任期は、２年とする。ただし、再任を妨げない。

２　前項の規定にかかわらず、総会で後任の役員が選任されていない場合に限り、任期の末日後最初の総会が終結するまでその任期を伸長することができる。

３　補欠のため、又は増員によって就任した役員の任期は、それぞれの前任者又は現任者

の任期の残存期間とする。
４　役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

（欠員補充）
第　　条 理事又は監事のうち、その定数の３分の１を超える者が欠けたときは、遅滞なくこれを補充しなければならない。

（解任）
第　　条 役員が次の各号の一に該当するに至ったときは、総会の議決により、これを解任することができる。この場合、その役員に対し、議決する前に弁明の機会を与えなければならない。
心身の故障のため、職務の遂行に堪えないと認められるとき。
職務上の義務違反その他役員としてふさわしくない行為があったとき。

（報酬等）
第　　条 役員は、その総数の３分の１以下の範囲内で報酬を受けることができる。
２　役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。
３　前２項に関し必要な事項は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

（職員）
第　　条 この法人に、事務局長その他の職員を置くことができる。
２　職員は、理事長が任免する。

第５章　総会

（種別）
第　　条 この法人の総会は、通常総会及び臨時総会の２種とする。

（構成）
第　　条 総会は、正会員をもって構成する。

（権能）
第　　条 総会は、以下の事項について議決する。
定款の変更
解散

員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、当該提案を可決する旨の正会員総会の決議があったものとみなす。

（表決権等）

第　　条 各正会員の表決権は、平等とする。

２　やむを得ない理由のため総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について書面もしくは電磁的方法をもって表決し、又は他の正会員を代理人として表決を委任することができる。

３　前項の規定により表決した正会員は、前２条、次条第１項及び第５１条の適用については、総会に出席したものとみなす。

４　総会の議決について、特別の利害関係を有する正会員は、その議事の議決に加わることができない。

（議事録）

第　　条 総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

日時及び場所

正会員総数及び出席者数（書面もしくは電磁的方法による表決者又は表決委任者がある場合にあっては、その数を付記すること。）

審議事項

議事の経過の概要及び議決の結果

議事録署名人の選任に関する事項

２　議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人２人以上が署名、押印しなければならない。

３　前２項の規定に関わらず、正会員全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたことにより、総会の議決があったとみなされた場合においては、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

（１）　総会の議決があったとみなされた事項の内容

（２）　前号の事項の提案をした者の氏名又は名称

（３）　総会の決議があったとみなされた日

（４）　議事録の作成に係る職務を行った者の氏名

第６章　理事会

（構成）

第　　条 理事会は、理事をもって構成する。

（権能）

第　　条 理事会は、この定款で定めるもののほか、次の事項を議決する。

総会に付議すべき事項

総会の議決した事項の執行に関する事項

その他総会の議決を要しない会務の執行に関する事項

（開催）

第　　条 理事会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。

理事長が必要と認めたとき。

理事総数の３分の１以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。

第１５条第４項第５号の規定により、監事から招集の請求があったとき。

（招集）

第　　条 理事会は、理事長が招集する。

２　理事長は、前条第２号及び第３号の規定による請求があったときは、速やかに理事会を招集しなければならない。

３　理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は電磁的方法をもって、少なくとも会日の５日前までに通知しなければならない。

（議長）

第　　条 理事会の議長は、理事長がこれに当たる。

（議決）

第　　条 理事会における議決事項は、第３４条第３項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

２　理事会の議事は、理事総数の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（表決権等）

第　　条 各理事の表決権は、平等とする。

２　やむを得ない理由のため理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面又は電磁的方法をもって表決することができる。

３　前項の規定により表決した理事は、前条第２項及び次条第１項の適用については、理事会に出席したものとみなす。

４　理事会の議決について、特別の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができない。

（議事録）

第　　条 理事会の議事については､次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

日時及び場所

理事総数、出席者数及び出席者氏名（書面又は電磁的方法による表決者にあっては、その旨を付記すること。）

審議事項

議事の経過の概要及び議決の結果

議事録署名人の選任に関する事項

２　議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人２人以上が署名、押印しなければならない。

第７章　資産及び会計

（資産の構成）

第　　条 この法人の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。

設立当初の財産目録に記載された資産

入会金及び会費

寄附金品

財産から生じる収益

事業に伴う収益

その他の収益

（資産の区分）

第　　条 この法人の資産は、特定非営利活動に係る事業に関する資産の　種とする。

（資産の管理）

第　　条 この法人の資産は、理事長が管理し、その方法は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

（会計の原則）

第　　条 この法人の会計は、法第２７条各号に掲げる原則に従って行うものとする。

（会計の区分）

第　　条 この法人の会計は、特定非営利活動に係る事業に関する会計の　種とする。

（事業計画及び予算）

第　　条 この法人の事業計画及びこれに伴う活動予算は、理事長が作成し、総会の議決を経なければならない。

（暫定予算）

第　　条 前条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、理事長は、理事会の議決を経て、予算成立の日まで前事業年度の予算に準じ収益費用を講じることができる。

２　前項の収益費用は、新たに成立した予算の収益費用とみなす。

（予備費の設定及び使用）

第　　条 予算超過又は予算外の支出に充てるため､予算中に予備費を設けることができる。

２　予備費を使用するときは、理事会の議決を経なければならない。

（予算の追加及び更正）

第　　条 予算成立後にやむを得ない事由が生じたときは、総会の議決を経て、既定予算の追加又は更正をすることができる。

（事業報告及び決算）

第　　条 この法人の事業報告書、活動計算書、貸借対照表及び財産目録等の決算に関する書類は、毎事業年度終了後、速やかに、理事長が作成し、監事の監査を受け、総会の議決を経なければならない。

２　決算上剰余金を生じたときは、次事業年度に繰り越すものとする。

（事業年度）

第　　条 この法人の事業年度は、毎年４月１日に始まり翌年３月３１日に終わる。

（臨機の措置）

第　　条 予算をもって定めるもののほか、借入金の借入れその他新たな義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、総会の議決を経なければならない。

第８章　定款の変更、解散及び合併

（定款の変更）

第　　条 この法人が定款を変更しようとするときは、総会に出席した正会員の４分の３以上の多数による議決を経、かつ、法第２５条第３項に規定する事項については所轄庁の

認証を得なければならない。

（解散）

第　　条 この法人は、次に掲げる事由により解散する。

総会の決議

目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能

正会員の欠亡

合併

破産手続き開始の決定

所轄庁による設立の認証の取消

２　前項第１号の事由によりこの法人が解散するときは、正会員総数の４分の３以上の承諾を得なければならない。

３　第１項第２号の事由により解散するときは、所轄庁の認定を得なければならない。

（残余財産の帰属）

第　　条 この法人が解散（合併又は破産による解散を除く。）したときに残存する財産は、法第１１条第３項に掲げる者のうち、総会で議決したものに譲渡するものとする。

（合併）

第　　条 この法人が合併しようとするときは、総会において正会員総数の４分の３以上の多数による議決を経、かつ、所轄庁の認証を得なければならない。

第９章　公告の方法

（公告の方法）

第　条 この法人の公告は、この法人の掲示場に掲示するとともに、官報に掲載して行う。ただし、法第　　条の　第　項に規定する貸借対照表の公告については、内閣府　　法人ポータルサイト（法人入力情報欄）に掲載して行う。

第　　章　雑則

（細則）

第　　条 この定款の施行について必要な細則は、理事会の議決を経て、理事長がこれを定める。

附　則

１　この定款は、この法人の成立の日から施行する。

２　この法人の設立当初の役員は、次に掲げる者とする。

理事長　　土居　靖範
副理事長　開沼　淳一
理事　　加藤　節子
同　　草深　千代子
同　　古家野　辰也
同　　杉浦　喜代一
監事　　澤江　雅志
同　　濱田　あつ子

３　この法人の設立当初の役員の任期は、第１６条第１項の規定にかかわらず、成立の日から平成２７年５月３１日までとする。

４　この法人の設立当初の事業計画及び活動予算は、第４４条の規定にかかわらず、設立総会の定めるところによるものとする。

５　この法人の設立当初の事業年度は、第４９条の規定にかかわらず、成立の日からその事業年度末までとする。

６　この法人の設立当初の入会金及び会費は、第８条の規定にかかわらず、次に掲げる額とする。

正会員
・入会金　５００円
・年会費　０円
賛助会員
・入会金　５００円
・年会費　０円

ただし、任意団体市民共同発電をひろげる城陽の会の会員である者が、本法人の会員となる場合は、入会金は徴収しないものとする。